

階上の心を 伝えて

● 階上便り

えんぶりを摺^する。奉納舞が跳ねる。

巨木の梢を階上の風が渡る。

階上早生そばのブランドが復活する。

そして土地柄そのものをパッケージした

階上の道の駅・産直・特産品便り。



◆県指定天然記念物・町指定天然記念物

トチノキ ウツギ イチヨウ

「茨島のトチノキ」(県指定)は、稲荷神社の御神木でもあり、樹高28.5m、幹囲6.98mの大樹。蛭子の「うつき」(県指定)は、樹齢推定不可能な古木で、ユキノシタ科の落葉低木であるにもかかわらず、高さ3m以上もあります。「銀杏木窟の大銀杏」(町指定)は、推定樹齢千年という町内一の古木で、明神小祠の御神木、「垂乳根の大銀杏」とも呼び親しまれています。また、平成23年に国内3位の巨木と認定された「平野家のサイカチ」が町指定になりました(19頁参照)。

◆町指定有形文化財(史料)

陸奥国三戸郡第九大区四小区地引図
——明治6年(1873)に現在の階上町は第九大区四小区になり、明治22年の市町村制施行により階上村となりました。地引図は旧階上村合併以前のものです。角柄折村や田代村など8村がそれぞれ2~4mほどの紙9枚に描かれています。

◆縄文時代寺下遺跡出土

鹿角製腰飾り——寺下遺跡は、赤保内地区にある縄文時代後期前葉~弥生時代初頭(約3000年~2300年前)にかけての遺跡です。平成16年度の調査で、当時の環境・生活・文化・信仰等を考える上で大変貴重な遺物が数多く出土しました。

中でも珍しいのが鹿角製腰飾りで、晩期の貝塚からはほぼ完全な形で出土しました。この腰飾りは、当時の数少ない男性用装身具として考えられています。

◆縄文時代滝端遺跡出土

膝を抱える土偶——滝端遺跡は、平内地区にある約3000年前の縄文時代晩期遺跡です。平成9、10年の発掘調査で「膝を抱える土偶」が発見されました。この土偶は頭の部分が胴部に差し込まれて焼かれた珍しいものです。似た形としては、八戸市風張遺跡出土の「合掌する土偶」(国宝)があります。



茨島のトチノキ



蛭子の「うつき」



銀杏木窟の大銀杏



膝を抱える土偶



陸奥国三戸郡第九大区四小区地引図



鹿角製腰飾り



三尊像



文化八年俳諧額(寺下観音)



寺下観音の「梵鐘」



平内えんぶり



田代えんぶり



鳥屋部えんぶり



赤保内駒踊り



平内鶏舞



道仏神楽

階上町の無形民俗文化財(伝統芸能)には、豊作祈願の予祝儀礼(前もって祝う儀式)の「えんぶり」(精霊供養である念仏踊り系の芸能といわれる「赤保内駒踊り」「平内鶏舞」、山伏神楽系の「道仏神楽」などが伝承されています。

また、有形文化財としては、「陸奥国三戸郡第九大区四小区地引図」「滝端遺跡出土遺物」「寺下遺跡出土遺物」「三尊像」「寺下観音の「梵鐘」「蛇口伴蔵願文額」「文化八年俳諧額」などがあります。

天然記念物としては、県指定の「茨島のトチノキ」「蛭子の「うつき」、町指定の「銀杏木窟の大銀杏」「平野家のサイカチ」があります。

◆国指定重要無形民俗文化財

えんぶり

【平内】——えんぶりは、「えぶり」という田を摺りならす農具を持って舞う(摺る)ことが名称由来といわれます。唄やしぐさがゆったりとした「ながえんぶり」と、テンポが速く活発な「どうさいえんぶり」があり、平内えんぶりはながえんぶりです。文政元年(1818)に八戸の新井田横町から伝えられたそうです。

【田代】——明治38年(1905)頃に田部村杉沢(現南部町)の坂本西松氏を師匠に習得したどうさいえんぶりです。掛け声の「ドーサイ」をこの組では「ドーナイ」と使います。

【鳥屋部】——えんぶりでは烏帽子の美しさも見ものの一つで、農耕の様子、宝、鶴亀、恵比寿様、大黒様などの絵が描かれています。ながえんぶりには、牡丹やウツギの花が付き、どうさいえんぶりでは前部に五色のテープ状の前髪が付き、鳥屋部はどうさいで前髪が付き、創始が定かではなく、休止、復活を繰り返していましたが、昭和51年(1976)に復興して今に至ります。

◆県指定無形民俗文化財

駒踊り——古くから馬産地として知られる南部地方には、放牧の野馬を捕獲する勢子や名子たちのしぐさを模した駒踊りが伝えられています。「赤保内駒踊り」は宝暦8年(1758)に、現在の五戸町切谷内から伝授されたといわれ、盆の祖霊供養で踊られるなど、念仏踊りとの関わりが深いようです。

◆県指定無形民俗文化財

鶏舞——鶏舞(ケイマイ・ケイバイ)は、古くには陰陽家の行う作法として呪文を唱え舞踏をする反閉(ヘンバイ)が芸能化したという説もあります。「平内鶏舞」は、安政のはじめ(1854)頃に仙台領気仙沼方面から伝えられたとされ、盆中の祖霊供養で踊られます。鶏は霊力のあるものともいわれています。

◆町指定無形民俗文化財

神楽——300年以上も前から階上町に伝わる「道仏神楽」は、山伏神楽系の民俗芸能です。巡業の「霞掛け」には春祈祷や綱祈祷がありました。獅子頭や神楽面も見ものです。

2 階上早生階上そば

階上早生そばの 拠点整備

南部地方は古くから雑穀の産地で、階上ではそば栽培が盛んになってきました。大正七年（一九一八）に「階上早生」と命名され、そばでは青森県で唯一の奨励品種に採用されています。

昭和三十年（一九五五）あたりから、収益性の高い野菜や葉タバコが導入されてそばの栽培は減少していましたが、四十年頃から老人クラブなどで階上早生をなくしたくないと継承されてきました。

そして、昨今の健康ブームでそばの消費拡大が見込まれるようになって、平成十八年（二〇〇六）に階上そば振興委員会「そばりえ」（阿部武志会長）が発足。十九年度には「階上早生階上そば」として商標登録しました。また、二十三年九月には八戸圏域定住自立圏の連携事業で、

八戸市南郷区の「南郷そば振興センター」の乾燥施設が拡張整備され、町内そば生産者も同施設で乾燥作業を行えるようになりました。さらに閉校となった登切小学校を「わっせ交流センター」に改修し、そば振興の拠点として利用することとしています。

階上早生そばの 六次産業化

階上早生は、その名前からも

分かるように、生育日数が約五五日と短く、中間種といわれて春にまいても夏にまいても収量があまり変わらないのが特徴です。また、粘りが強く香りが高いのが特徴で、風味の良さが人気の秘密です。

平成二十年には「階上早生手打そば愛好会」（佐藤義臣会長）が設立され、全麵協のそば打ち大会で段位を取得するなど、そば打ちの技術向上が期待されています。また、「階上早生そば加工品コンクール」や「新そば

祭り」が開催されており、はしかみグリーン・ツーリズム協議会が「はしかみの自然満喫シリーズ」として、年五回の階上早生そば体験メニューを開催するなど、様々な場面を利用してPR活動も盛んに行われています。現在、階上早生そばは「道の駅はしかみ」でそば粉の販売と手打そば教習所が開催されており、寺下観音前の観音茶屋「東門」ではそば料理を味わうことができます。また、平成二十四年四月からは「わっせ交流セン

ター」で、そば打ち体験や手打ちそばを提供します。町では階上早生階上そばの生産・加工・販売まで、二次・三次産業を融合・連携させ、六次産業化を図ることによってブランドの強化を目指しています。



観音茶屋「東門」のそば料理



そば畑と階上岳



階上早生そばの拠点施設「わっせ交流センター」

はしかみグリーン・ツーリズム協議会が実施した「はしかみの自然満喫シリーズ」の階上早生そば作りの体験。右からそばの種まき、そばの花見、そばの刈り取りと鳥立て、下の右からマドリを使ったそばの脱穀、そば打ち



第33回階上町民文化祭の階上早生PRコーナーで、指導を受けながらそば打ち体験をする来場者（平成23年10月29日）

3 道の駅・産直施設・特産品

平成五年（一九九三）の制度スタート以降、農産物の直売所やレストランなどがある「道の駅」が地域に定着し、平成二十三年度には登録数が全国で千カ所に達するといわれています。ブームの背景は車社会の発展はもちろんのこと、新鮮で安く安全で、一般には流通しない食材を味わえる楽しみがあることです。

この鮮度・旬・完熟という三要素は産直にしかできない特徴で、都会に住む人が生産地に近い所で自分の好みに合わせてものを買う「地域志向」の高まりがあるともいわれています。

階上町にも道の駅や産地直売施設があり、生産者が加工や流通まで携わる六次産業化の場としても期待されています。



わっせ交流センター



フォレストピア階上



道の駅はしかみ



元祖いちご煮



生うに丼



海藻ラーメン



特産品の数々



道の駅はしかみの野菜販売コーナー



田代の山間部にある「タシロ」ばばちゃのお店



「タシロ」ばばちゃのお店では手作り加工品が人気

◆道の駅 【道の駅はしかみ】

「道の駅はしかみ」の観光物産館には、階上町の新鮮な農産物、海産物が集まる物産販売コーナーや実演販売コーナーがあり、レストラン・アゼリーでは旬の食材を使用した郷土料理が人気です。また、出店も多彩で、店頭で鮭トバなどを干していたり、まさに階上町の顔そのものになっています。

◆産地直売施設 【「タシロ」ばばちゃのお店】

土・日と祝日だけの営業で、小さな産直施設ながら無添加・無農薬の旬の食材や、味噌・すげもち・やきもち・よぎもちなど懐かしい手づくり加工品が人気で、わざわざ八戸市内からの買い物客もあるとか。

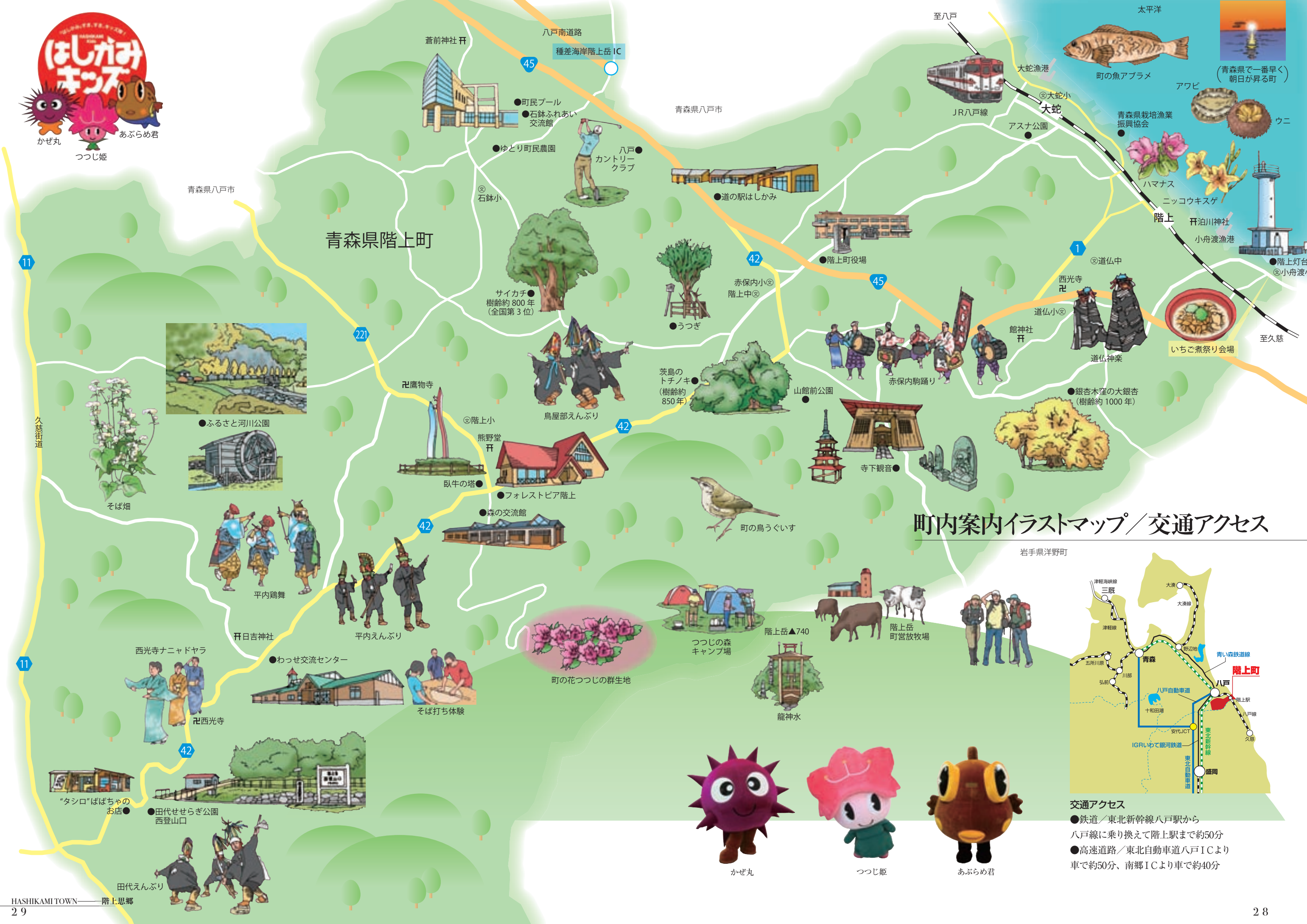
この店の特徴は、80歳を最高齢に平均66歳という元気な「ばばちゃ」の笑顔です。そのほか店内には昔使った生活用具や農具まで展示販売しています。

【フォレストピア階上】

階上岳登山口にあり、平成24年4月にリニューアルオープンしました。地元農家による新鮮な農産物の販売のほか、食堂では地産地消にこだわり、地元の食材を使用した料理を提供します。

【わっせ交流センター】

旧登切小学校を利用し、平成24年4月にオープンしました。階上早生そばの振興拠点施設として、手打ちそばの体験、そばの加工・販売をするほか、郷土料理の提供や農産物も販売します。



町内案内イラストマップ／交通アクセス



交通アクセス

- 鉄道／東北新幹線八戸駅から八戸線に乗り換えて階上駅まで約50分
- 高速道路／東北自動車道八戸ICより車で約50分、南郷ICより車で約40分



かぜ丸 つつじ姫 あぶらめ君